



New Caledonia

自分好みの旅を体験できる場所「ニューカレドニア」

ニューカレドニア観光局

ラグーンの世界遺産登録10周年を迎えるニューカレドニア。海のみならず、山や森でのアクティビティ体験も充実する自然豊かなデスティネーションです。一方、ニューカレドニアは「日本からいちばん近いフランス」でもあり、フランスらしい洗練された雰囲気の中、優雅なバカンスを過ごすにもぴったり。ニューカレドニアは、誰もが自分好みの旅を体験できる場所なのです。



首都・ヌメア

首都・ヌメアの街は、「南太平洋のコートダジュール」と称される美しい港町。瀟洒なコロニアル建築による街並みや、フランス領ならではの一流グルメ、ショッピングなど。フレンチシックな趣を存分に味わえるのも魅力です。モーゼル湾にあるマルシェは地元食材からファッション雑貨までさまざまな品を扱っているのでお土産物探しにぴったり。マルシェ中央にあるカフェでは、大きなカップで提供されるカフェオレとクロックムッシュ、クロックマダムなどが人気です。



グランドテール島西海岸中央部

グランドテール島西海岸中央部は、一面に牧草地や灌木地が広がり、開拓時代の名残を感じられるエリアです。

ラ・フォア

暮らしの中で馬が欠かせないこの地域での人気アクティビティは乗馬。日本のように馬場内を回るだけの乗馬ではなく、森や山の中を歩いたり、馬に乗ったまま海を渡り近くの無人島にまで行くコースも。



ファリノ

(巨大シダの森公園)

数十メートルの高さにまで成長する巨大な木生シダが生い茂る森。これら木生シダの中には太古の昔から息づく原始的な希少種も。ジュラシックパークのような神秘的な森をハイキングすれば、多彩な鳥たちとの出会いも楽しめます。またここはカグーの生息地の一つでもあり、運が良ければ出会える可能性も。



ブーライユ

ニューカレドニア第2の都市・ブーライユ。周辺のラグーンは世界遺産登録エリアで、バリアリーフまでの距離が非常に近いのが特徴です。少し沖合に出れば、美しいラグーンがすぐ楽しめるうえに、丘を30分ほど登るだけでラグーンの絶景を満喫することもできます。



グランドテール島南部

ニューカレドニア特有の鉱物分の多い赤い大地が広がるエリアです。この地域には固有動植物が非常に多く、貴重な植物や鳥類との出会いが楽しめます。

リビエール・ブルー州立公園

首都・ヌメアから車で約1時間半、ニューカレドニア特有の赤土の大地が広がる広大な自然保護区です。ここに生息する植物の約9割がニューカレドニアの固有種という固有植物の宝庫でもあります。またここはニューカレドニアの国鳥・カゲーとの遭遇率が高い場所としても知られるなど、ニューカレドニアにしかない動植物との出会いを楽しむにはうってつけのスポットです。湖に立ち枯れた木々が茂る「沈める森」も神秘的な雰囲気を醸し出しています。



© Toko / NCTPS



© Terres de Lumière / NCTPS

国鳥・カゲー

ニューカレドニア固有の鳥で、一度つがいになると一生添い遂げることから「愛の鳥」とも呼ばれています。非常に希少な鳥ですが、リビエール・ブルー州立公園では高い確率で出会うことができます。



© NCTPS

プロニー湾

7月中旬～9月上旬、子連れのザトウクジラが回遊でやってきます。ホエール・ウォッチング・ツアーには、ヌメアから船で向かうものと、プロニー湾まで車で行き、そこから船で沖に出るものの2タイプがあり、いずれもザトウクジラの生育に影響が出ないよう、許可を受けたツアー会社のみが実施しています。



© Terres de Lumière / NCTPS



© Catamania / NCTPS

ロワイヨテ諸島&イル・デ・パン

島国ニューカレドニアには数々の離島があります。中でも世界遺産登録のラグーンに囲まれた2つの島が人気です。

ウベア島 (ロワイヨテ諸島)

首都・ヌメアから国内線飛行機で約35分。旅行記「天国にいちばん近い島」の舞台であり、映画のロケ地にもなった島。まだまだ観光客も少ないため、20km以上にわたって続く真っ白いパウダーサンドビーチを独り占めする感覚を味わえることでしょう。



© Valentin Coutaz / NCTPS



© Carin / Mavict / DIL / NCTPS



© Oiseau-Rose.com

レキンの断崖

また古くからカナック（メラネシア系の先住民）の聖地とされている「レキンの断崖」は、今なお隆起を続けており、近年、海中に沈む第7の大陸・ジューランドの一端を目の当たりにできる場所として注目されています。

イル・デ・パン

古来、地元で「海の宝石箱」と称されてきた美しい島。ニューカレドニア屈指の美しいホワイトサンドビーチが続くクト・ビーチ、隆起したサンゴに囲まれ絶好のシュノーケリングスポットとなっている「ピッシンヌ・ナチュレル」、その昔、女王が争いを避けるため身を潜めたというジャングルの中の神秘的な「オルタンス女王の洞窟」など、見どころも多数。



© Ethnotrack / NCTPS



© Ridresso / NCTPS

クト・ビーチ



© Ethnotrack / NCTPS

ピッシンヌ・ナチュレル



© ARTFOCUS ME / NCTPS

オルタンス女王の洞窟

★ ニューカレドニア観光局 公式サイト
<https://www.newcaledonia.travel/>